

日本認知症予防学会設立の趣旨と 第1回学術集会終えて



日本認知症予防学会理事長
鳥取大学医学部保健学科生体制御学講座・教授 浦上克哉

このたび日本認知症予防学会は2011年4月に発足しました。この学会を立ち上げた理由は、認知症予防への取り組みは、今まさに社会の高いニーズであり、早急な対策が期待されているからであります。ただし、ここでいう予防は第1次予防(病気の発症予防)だけでなく、第2次予防(病気の早期発見と治療)、第3次予防(病気の進展防止)まで含めてのものです。もちろん、第1次予防が最も重要ではありますが、いずれの予防も先手を打って後手・後手にならないようにしていくべきと考えます。

また、認知症診療とケアは多職種が協働して行う必要があります。そのような多職種連携ができる学会も目指しております。

既に各地で認知症予防の取り組みは始まっておりますが、そのレベルや内容は一定しておりません。そこで、認知症予防専門士制度を作り、認知症予防の基盤づくり、人材育成をしていきたいと考えております。さらに、認知症の検査に広く対応できる認知症専門臨床検査技師制度も企画します。「認知症の予防時代の幕開け」をテーマに2011年9月9日から11日まで鳥取県米子市の米子コンベンションセンターで「第1回日本認知症予防学会学術集会」を開催しました。国内外から延べ約600人以上が参加し、特別講演、教育講演、シンポジウム、約100題の一般演題発表などを通して認知症予防をめぐる最新の取り組みが報告され、活発な議論が交わされました。学会では、認知症予防に携わる人材育成のための「認知症予防専門士」「認知症専門臨床検査技師」の養成講座を開講しました。今後は、認定試験を行い、専門的な知識と技術を持った人材の育成を進めていく予定です。

最終日の11日の午後に市民公開講座「認知症予防のできるまちづくりをめざして」には約420人以上の市民が参加され、認知症をめぐる最新情報や全国から注目を集める鳥取県発の認知症検診と予防の取り組みなどについて理解を深めました。9月12日にはオプションルツアーとして発祥の地である琴浦町でもの忘れ検診と予防教室の見学を企画しました。今回企画した講座やツアーがいずれも盛況で、定員オーバーとなりお断りせざるを得なかった方が出たことを深くお詫びいたします。

今後この学会が社会のニーズに応じてしっかりと科学的根拠のあるデータと現場での実践データを出し、社会の評価を頂き認知症予防が発展していくように頑張っていきたいと思っております。第2回日本認知症予防学会学術集会(西野憲史会長)は北九州市で2012年9月7日～9日に開催予定です。第1回大会以上に多くの参加が得られることを期待しております。